

# 1-6

## 介助事故防止への取り組み

アザ、表皮剥離“ゼロ”を目指して

リスクマネジメント

事故防止・再発防止

特別養護老人ホーム 和田堀ホーム

発表者：介護副主任 中泉 淳	共同研究者：阿部政宏、市川聡、大塚克久、荻原貴臣、川口豊子
所在地：東京都杉並区和田2-27-8	共同研究者：佐藤純也、佐藤勉、田中光二郎、利田美子
TEL：03-3316-2943	E-mail：abe@shinsyounokai.or.jp
FAX：03-3316-2973	URL：http://www.shinsyounokai.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	一度しかない人生を楽しみつつ安らいで過ごせる施設を目指し、個別のケースカンファレンスを充実させ、サービスの第三者評価を導入し、福祉QCにて活性化を図りながら介護力の向上、職員の資質の向上、個別ケアの充実に取り組んでいます。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 職員の事故に対する意識の向上</li><li>・ 事故防止、再発防止</li></ul> <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 事故個別集計表の算出</li><li>・ 事故報告書の提出・回覧</li><li>・ 事故防止、予防に対する勉強会</li><li>・ 理学療法士によるトランスファの勉強会</li><li>・ グラフ化・統計による事故の視覚化</li><li>・ 個々の利用者に合わせて介護用品・用具の活用・検討</li><li>・ 事故発生時の臨時事故対策委員会の実施</li><li>・ 勤務体制の整備を実施</li><li>・ 介護記録と事故報告書の連動</li><li>・ 個別特徴シートの作成</li></ul>	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 意識の向上により事故報告書、ヒヤリハット報告書の提出数が増加</li><li>・ 介護用品・用具の活用により事故再発が減少</li><li>・ 個々の具体的な状況の把握が可能となり、それにより事故の再発・防止に取り組むことができた</li><li>・ 事故に対する迅速な検証ができ、再発防止につながった</li><li>・ 必要な利用者に対して、2人介助が確実に実施できるようになった。</li><li>・ 記録や報告により、業務負担が増加</li><li>・ 介護用品・用具の利用への理解が深まり、施設体制の改善が図れた</li></ul> <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 対策を随時見直し、改善を図ること</li><li>・ 用品・用具の活用を促進させて、職員の負担軽減を図る</li><li>・ 記録や報告書の見直しを行い、さらなる質の向上と作業量の軽減に取り組む</li><li>・ 職員教育や研修を充実させる</li><li>・ 事故や対策についての風化・マンネリ化を防ぐ</li></ul> <p>〈参考資料など〉</p>
---	--

【メモ欄】
-------